

会 議 録	
会 議 名	令和6年度 第1回 丸亀市未来を築く地域戦略会議
開催日時	令和6年7月5日（金）10：00～12:05
開催場所	丸亀市役所4階特別会議室
出席者	出席委員 西成 典久、岩倉 洋平、中村 優、高畑 響子、高木 和代、内海 珠美 東原 隆啓、相原 しのぶ、佐久間 知恵、西川 真智子、三谷 幸代 高木 明美、秦 佳子、梶谷 孝啓、井上 達也、直井 馨子、向井 将寅 欠席委員 佐藤 国夫 事務局 市長公室長 栗山 佳子 （政策課）課長 真鍋 裕章、副課長 藤井 慶子、主査 大川 智 （デジタル活用推進課）副主任 野村 佳輝 協働推進部 （地域づくり課）副主任 穴吹 優弥 教育部 （文化財保存活用課）丸亀城管理室長 大林 隆之
議事	1. デジタル田園都市国家構想交付金事業について 2. 第2期丸亀市未来を築く総合戦略アクションプランの進行管理について 3. 第3期丸亀市未来を築く総合戦略の策定方針について 4. その他
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	ただ今より、令和6年度第1回丸亀市未来を築く地域戦略会議を開会します。議事に入る前に、本日の資料を確認します。 なお、本日の会議は、議事録作成支援システムを使用し、会議を記録しますので、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用し、発言するようにしてください。 それでは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づき、会長に議長をお願いします。
西成会長	それでは、会議を進めさせていただきます。本日の会議ですが、委員総数 18 名中 17 名の出席であり、過半数を満たしていますので、丸亀市附属機関設置条例の規定により会議は有効に成立していることをご報告させていただきます。 本日の議事は、 （1）デジタル田園都市国家構想交付金事業について （2）第2期丸亀市未来を築く総合戦略アクションプランの進行管理について （3）第3期丸亀市未来を築く総合戦略の策定方針について （4）その他

	の4件です。まず、「(1) デジタル田園都市国家構想交付金事業について」事務局より説明をお願いします。
大川	<資料に基づき説明>
中村委員	城泊の予約状況について教えてください。
大林室長	予約までには至っていませんが、問い合わせは12件で、そのうち6件が予約に向けて調整中です。
岩倉委員	事業費と交付額の関係について教えてください。
真鍋課長	交付対象事業を実施するにあたり、事業費を概算で計算し、その額に対して国に交付金を申請します。その確定額が資料で示している金額です。
東原委員	「行政手続の事前申請及び申請書発行事業」のKPIのうち、LINEの友だち数が目標値5,000件に対して75件と大きく乖離しています。先ほどの説明の中で市の公式LINEと分けたとありましたが、その理由を教えてください。
野村	申請システムを運用するにあたり、仕様上や個人情報のセキュリティの観点から分ける必要がありました。現時点で目標値から大きく乖離していますが、LINEから申請できることを知らない方が多くいることが要因と考えていますので、広く利用していただき、合わせて友だち数も増やせるよう努めていきます。
西成会長	次に、「(2) 第2期丸亀市未来を築く総合戦略アクションプランの進行管理について」事務局より説明をお願いします。
大川	<資料に基づき説明>
西成会長	アクションプランでは、年度ごとの数値目標を掲げていない取組が多くを占める中、どのように評価するかが重要です。評価をどのようにしていますか。
大川	評価の多くが担当課長の主観になりますが、評価の前提として、目標値に対する増減を目安としています。
佐久間委員	私の勤める企業の評価制度では、評価をする管理職により対象者への評価にバラつきがあり、整合性をどうとるかが課題となっています。難しいとは思いますが、評価の際には、数値化できない部分も含め一定の基準を設ける必要があると思います。

梶谷委員	会長の評価に対する考え方としては、各取組で掲げているK P I の評価基準を設け、A～Eの評価を機械的にしていくということでしょうか。
西成会長	各取組のK P I だけでは、評価できないと考えています。アクションプランの状況・結果を見ると、K P I 以外の取組を記載していますが、その部分の評価は自己評価になっており、その評価が妥当なのか分かりにくい状況になっています。
梶谷委員	基本目標を達成できたかを測る指標が各取組のK P I と認識しており、それを機械的に評価せざるを得ないと考えています。基本目標に対して、K P I が連動していないのであれば、別のものに見直す必要があると思います。
西成会長	K P I はどのように設定しましたか。
大川	令和元年度に第2期未来を築く総合戦略を策定する際、担当課へのヒアリング等で決定したと思います。見直し年度が令和元年度とコロナ禍前と社会情勢にも大きな変化があり、現在の考え方や取組にもギャップが生じていると考えています。 今年度、第3期未来を築く総合戦略を策定する際には、基本目標に各取組のK P I が連動するよう見直したいと思います。
西成会長	K P I の指標だけでは、状況・結果に記載している取組やその実績を無視することになってしまいます。多岐の業務に携わる行政としてK P I だけで評価することはデメリットも大きいと思います。
東原委員	基本目標1の自然増に係る各取組の評価を概ねCとしていますが、出生数は減少し続けています。各取組によって出生数が現在の値に留まったなど、他の自治体の状況などを俯瞰的に見て比較することで、取組の成果がより分かってくると思います。
西成会長	基本目標1の成果目標の状況を見ると、目標値の達成が困難な状況になっています。達成できなかった要因などを改めて振り返り今後どうしていくかを検討する必要があると思います。
大川	今年度、総合戦略に合わせ丸亀市の将来人口目標等を示す人口ビジョンの見直しを予定しており、その分析結果をもとに第3期総合戦略を検討したいと考えています。
西成会長	見直した人口ビジョンについては、担当課まで情報共有し、市として目指す方向性を共通認識として持っていただくようお願いします。
岩倉委員	アクションプランについて、文字をあまり読まない市民にも分かるよう目次周辺にイメージ図などがあれば良いと思います。

大川	市民にも分かりやすい資料となるよう検討します。
相原委員	インターンシップの取組において、2021、2022 年度とD評価が続く中、市として改善の姿勢を見せていただく必要があると感じています。その状況・結果を見ると参加者は減少している一方で、参加企業は増加しており、企業側の人員確保が課題であることを感じますが、どこの企業を募集していますか。 また、実績を見るに採用まで結び付いておらず、ギャップがあるように見受けられますが、こういった学生を募集し実施しているのか教えてください。 もう1点、中学生と大学生への取組を実施しているのに対し、高校生への取組が計画にはありません。高校卒業後8割が県外流出している状況からも高校生へのアプローチも必要と思います。
大川	インターンシップの取組は、行政評価委員会の評価対象事業にあたっており、そこでのご意見も踏まえながら取組の改善をしていきたいと思っています。 また、現在売り手市場と企業側も人手不足の課題を抱えていることからインターンシップの需要は高いと感じています。その企業の募集については、本事業は丸亀市だけではなく、瀬戸内中讃定住自立圏の枠組みで実施していることから、圏域内の優良企業 30 社程度に協力をお願いしています。学生については、四国出身の学生で、首都圏と関西圏の学生を中心に 50 名程度参加者を募集していますが、定員まで達していない状況です。
真鍋課長	高校生へのアプローチについては、市としても非常に大事なことだと認識しています。高校は香川県の管轄になるため、市が主となる取組をまとめたアクションプランには記載していませんが、香川県と連携したアプローチをしています。
西成会長	地方都市の問題として、就職したい企業がない、ジェンダー・ギャップによる女性の働きづらさなどが言われていますが、働き方改革に関するK P Iはありますか。
大川	働き方改革に特化した産業振興支援補助金に関するK P I と、キッズウィークに関するK P I を設定しています。
西成会長	若者が地方に戻りたいと思える企業を作っていくことは、丸亀市だけではなくすべての地方都市において取り組むべき課題であると思います。
高畑委員	リモートワークなど多様な働き方が推進され、居住地域を選べる方が多くなったと感じています。多様な働き方を切り口とした移住を促進してはいかがでしょうか。 また、私のお店には、移住希望の方が多く来店されますので、移住のHPだけではなく、パンフレットもあれば良いと思います。

大川	リモートワークについては、コロナ禍を契機に丸亀市でも増加傾向にあります。今後さらに増やしていくため、昨年度にワーケーションPR動画を制作しました。今年度はPR動画を基にしたモニターツアーの実施を予定しており、テレワークをはじめとする多様な働き方を推進していきたいと考えています。 また先日、新しい移住パンフレットが完成しましたので、店舗に設置していただくと幸いです。
内海委員	私の所属する中小企業家同友会では、高校生へのアプローチの一環として、インターンシップを実施しています。こうした取組と市が連携して実施することで、計画内にも高校生向けの取組を記載でき、中学生から大学生までのつながったサポートをしているPRになると思います。 また、こうした取組が若者のUターンに関わる大事なところになりますので、中讃定住自立圏や地元の中小企業などと連携し、同じ目標に向かって取り組んでいただきたいと思います。 もう1点、市民球場の利用者数が減少し、D評価となっていますが、その要因にスケジュール調整がうまくいかなかったとあります。利用団体と十分に調整し、計画的に市民球場が利用されるよう努めてください。
大川	高校生のアプローチについては、丸亀市単独でできることは限られてくると思いますので、ご意見いただいたとおり、同友会や圏域自治体と連携した取組を進めていきたいと思います。 市民球場については、予約の空きが少なくなるよう利用者増に向けて取り組んでいくよう担当課にお伝えします。
井上委員	大阪・関西万博について、市としてどう関わっていきますか。
大川	万博については、香川県が主となり取り組んでいます。丸亀市としては、来年のゴールデンウィークに、国の伝統的工芸品であり、持続可能な観光地TOP100にも選出された丸亀うちわの制作実演を万博会場で行う予定としています。 今後も様々な形で万博に携われると思いますので、丸亀の魅力を世界に発信できるよう取り組んでいきたいです。
西川委員	高齢者が福祉用品をレンタルする際、1割程度の負担で利用できる制度があると思いますが、子育て用品でも同じような補助はできないでしょうか。 また、丸亀市内の保育士において、正規と非正規の格差が大きくなっているとお聞きします。保育士はこどもの命を預かる職業の割には賃金が低いと思いますので、格差の是正をお願いします。
大川	ご意見を担当課にお伝えさせていただきます。

東原委員	人口減少や少子高齢化など社会課題の解決に向けては、瀬戸内中讃定住自立圏の中心市として、点ではなく圏域市町の連携による面での取組を進めていく必要があると思います。 また、奨学金返還支援制度を実施するにあたり、地元企業へ就労した場合の支援を手厚くするなど、地元就労にもつながる制度設計もご検討ください。
大川	定住自立圏のスケールメリットを生かせる面での取組も引き続き進めていきます。奨学金返還支援制度は今年度から開始となりますので、今後の申請状況等を踏まえながら検討したいと思います。
西成会長	企業の本社機能の移転がコロナ禍前に比べ増加していますが、誘致する取組はありますか。
大川	企業立地促進奨励金制度による誘致を図っていますが、企業を誘致する土地に限りがあることから、本社機能の移転は多くありません。
梶谷委員	どの自治体も同様の取組を行い、移住者を取り合っている印象がありますので、東京等の首都圏からの流入を促進していただきたいと思います。また、丸亀市への移住をPRするにあたり、何を強みとして丸亀をPRしていますか。
大川	「住みやすさ」を強みとしています。全体を通して社会増の傾向にあることに加え、民間のシンクタンクで高評価を得ていることから、その強みが浸透しつつあると感じています。 また、丸亀市を移住先に選んでいただけるような取組を本総合戦略で取りまとめているので、引き続き選ばれるまちとなるよう、第3期未来を築く総合戦略に掲載する取組を検討していきたいと思います。
直井委員	Gruun まるがめのイベントのアルバイトに行った際、参加者の家族から施設の存在を知らなかったとの声がありました。施設の周知はどのようにしていますか。
大川	Gruun も一周年を迎え非常に多くの方にご利用いただいています。その周知については、Instagram 等の SNS のほか、出張 Mooovi などを行っています。
向井委員	学生寮で生活していると市の情報が中々入ってこないのですが、どのように情報発信をしていますか。
大川	HPや広報紙のほか、Facebook、X、Instagram、LINE で情報発信しています。現在、LINE の 1 周年記念の友だち拡大キャンペーンを実施していますので、この機会にご登録をお願いします。

岩倉委員	テレワークができる Wi-Fi 環境が整ったサテライトオフィスの誘致など、民間への支援策についてもご検討ください。
西成会長	Wi-Fi 環境の整備は必須です。新市民会館での整備もお願いします。
大川	デジタル田園都市国家構想交付金の地方創生テレワーク型など、国の交付金メニューも確認しながら検討したいと考えています。
秦委員	定年延長し退職する年齢が伸びたことにより、地域ボランティアの担い手不足が進み、長生き体操のリーダーや、高齢者等移動手段確保事業のドライバーの高齢化が問題となっています。
三谷委員	高齢者の中には、コミュニティバスの停留所までが遠いという意見があります。市ではデマンドタクシーなどの取組をしていますが、地域でも何か取り組めたらと考えています。
大川	どこの地域においても、担い手不足が問題視されています。仕事が忙しいなど若い世代が地域で活動することの難しさはありますが、担い手の確保に向けては、若い世代の流入を促進していかなければならないと考えています。
高木委員	まる育サポートのあだあじおの取組は、他の自治体にはない市独自のものと認識しており、専門相談員の半日常駐制に加え、保育士の半日常駐日を設定したことにより、相談件数も増加しています。地域子育て相談機関として果たしている取組についてもアクションプランに掲載することでより内容が見えてくると思います。
大川	まる育サポートは市独自の取組と認識しており、制作した移住チラシの子育て情報のところでも掲載しているところです。 また、地域子育て相談機関は、子育て世代になくってはならない相談窓口になっていると考えています。これからは、こども食堂など地域で活動している団体等においても、子育てに関する悩みをお聞きし、相談機関につなげていく啓発にも注力していきたいと思っています。
内海委員	高校生など多くの方が集まるマルタスで L I N E の登録を P R するのはいかがでしょう。また、不要な情報が多く届くとブロックされることから、必要とする情報が、必要な方に届くような仕組みが必要です。
大川	マルタスにもチラシを設置し、登録拡大を図っているところです。L I N E の登録する際、自分の興味のあるカテゴリーを選択し、必要のない情報が届かないように設定できることから、ブロックされるリスクは低減されていると思います。

梶谷委員	L I N Eの友だち登録へのインセンティブをご検討ください。
大川	今回実施している友だち拡大キャンペーンなどを今後も検討してみます。
西成会長	次に、「(3) 第3期丸亀市未来を築く総合戦略の策定方針について」事務局より説明をお願いします。
真鍋課長	<資料に基づき説明>
中村委員	国の資料に、職業訓練のデジタル分野の重点化とあります。丸亀市に職業訓練学校がある強みを新しい総合戦略で生かしていただきたいと思います。
井上委員	新しい市民会館を活用したソフト事業のほか、子育て、コミュニティ、丸亀城など新しい施策を総合戦略に盛り込んでいただきたいと思います。
西成会長	他にご意見もないようですので、最後に議事の「(4) その他」について事務局より何かありますか。
大川	<次回会議のご案内>
西成会長	他にないようですので、本日の会議を終了します。
	(会議終了)